

平成26年度第2回清瀬市史編さん委員会

議事要旨

日 時：平成27年1月19日（月）

午後3時～5時

場 所：男女共同参画センター第1、第2会議室

出席委員：浅倉直美、黒川徳男、根岸茂夫、栗山究、齊藤隆雄、齊藤靖夫、
坂間和英、岡田耕輔、黒田一美、小西一午、中澤弘行（11名）

欠席委員：谷口康浩、田村均（2名）

事務局：企画部長、市史編さん室長、市史係2名（4名）

《次第》

1. 開 会
2. 清瀬市史編さんに係る基本方針（案）について
3. その他
4. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（平成26年度第2回清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 清瀬市史編さんに係る基本方針（案）【資料1】
3. 清瀬市史編さんに係る基本方針（案）検討のポイント【資料2】
4. 自治体史の名称【資料3】
5. （参考）市史研究の内容（小平市・狛江市）【資料4】
6. 自治体史編さんに伴う継続的刊行物【資料5】
7. 編さん体制のイメージ【資料6】

《審議経過》

1. 開 会

委員長 これより、第2回清瀬市史編さん委員会を開催いたします。

議事に入る前に、事務局より、資料および進め方について説明があります。

事務局 （配布資料および時間的なスケジュールについて説明）

2. 清瀬市史編さんに係る基本方針（案）について

2-1. 市史編さんの目的について

委員長 それでは、議事に入ります。

本日は、「清瀬市史編さんに係る基本方針（案）」について検討します。

【資料 2】の「清瀬市史編さんに係る基本方針（案）検討のポイント」に沿って議論を進めていきたいと思えます。

まず、「市史編さんの目的」について検討します。事務局より説明ねがいます。

事務局 【資料 1】の基本方針（案）では、「平成 32 年の市制施行 50 周年に向け」取り組むとありますが、先日来の議論のなかで、スケジュール的に厳しいという指摘がありました。これを受け、修正案として「平成 32 年の市制施行 50 周年を視野に入れ」という表現にし、幅を持たせたいと考えました。

委員長 いかがでしょうか。修正案の通りでよろしいでしょうか。

各委員 了承。

2-2. 編さん基本方針および構成について

委員長 次に、編さん基本方針および市史の構成について検討します。

検討のポイントについて事務局より説明ねがいます。

事務局 【資料 2】に沿って、基本方針と市史の構成について説明)

<新たな市史の名称について>

委員長 まず、新たな市史の名称について検討します。

昭和 48 年発行の市史は「清瀬市史」という名称です。一般に、こうした固い名前から、刊行年を追ってやさしい名前にかわってきていますが、これから編さんする市史の名称について、ご意見ください。

委員 漢字の「清瀬」ではなく、ひらがなの「きよせ」を使った方が親しみやすい。
委員 名称は、現時点で決めなくてはならないのか。内容や形、考え方を煮詰めてから決めてもよいのではないか。固い名前、やわらかい名前などトレンドを反映した名前をつけると、名前が時代を映しているとはいえるが、それでよいか。また、歴史の編さんは次に続く事業であるので、「新」の文字をつけるのはそぐわない。

委員 「新」をつけると、今のものを「旧」とよぶのか、ということにもなり、それは適当でない。

委員 「続」をつけるのは、前の編集をどこかの時代などで打ち切ったときのことである。

委員 編さんの継続性を考えると、「きよせの歩み」といった表現もよいかと思う。

委員長 名称については、検討課題としての提案ととらえたい。「新」や「新修」をつけるというのではなく、書物の名前は、いろいろ議論を重ねてから決めるということによいですか。

各委員 了承。

<市史研究、普及啓発版について>

委員長 次に、市史研究、普及啓発版の名称と内容について検討します。
これらの名称については、新たな市史の名称同様、今後議論を煮詰めるということによいですか。

各委員 了承。

委員長 市史研究の内容について、編さん事業の PR をかねて、論文だけでなく市民の声などを取り込み、おりまぜながら関心を持ってもらう編集をするという事務局からの説明があった。こちらはこれでよいと思うが、普及啓発版は、どうするか。事務局からの提案では、通史編発行の前に普及啓発版発行を予定している。これを機に歴史に興味、関心を持ってもらいたいという市の意向がある。一般的に、普及啓発版、概要版は、通史編が出たあと、それをわかりやすく編集し、通史編への関心を導くという位置づけのもので、内容はそういう中で考えられるものとするところだが。

委員 市制施行 50 周年記念でなにか発行できるとよいと市は考えるが、「記念するものを発行する」ということを了解してもらい、内容については今後検討することによってどうか。

委員 普及啓発版は、編さん事業の中間で注意を喚起するためにも、50 周年より数年前に青少年、中高生向けに発行するのがよい。若い世代に清瀬の概略を示すものがよいと考える。

委員 PR には、編さん事業への取り組みの PR と、刊行する市史そのものの PR の二つがある。これを分けて考えてはどうか。現在展開されているブログ「市史で候」など、おもしろいし、同時に事業の PR にもなっていると思うが、例えば「市史で候」自体の PR も必要ではないか。取り組みの PR、市史そのものの PR いずれも、いろいろな面から行うことが必要である。

委員長 それでは、普及啓発版の構成については、進行状況に合わせて考えていくということによいですか。編さんの基本方針（案）の「3. 市史の構成」についても、本編、資料編、普及啓発版、市史研究の各冊数が示されていますが、こちらも本編の進行を見つつ、柔軟に考えるということによいですか。

各委員 了承。

2-3 編さん体制について

委員長 続いて、編さんの体制について検討します。事務局より案について説明ねがいます。

事務局 **【資料 6】** に沿って説明)

各部会長の紹介

考古部会長	谷口委員
古代中世部会長	浅倉委員
近代部会長	根岸委員長
近代部会長	田村委員

現代部会長 黒川委員

- 委員長 編さん体制について、ご意見ください。
- 委員 第1回編さん委員会の折、12月に部会長会を開くと聞いたが、人選などは進んでいるのか。
- 事務局 12月25日に、部会長会を開き、郷土博物館、コミュニティプラザひまわりの考古収蔵室などを見学、今後の課題などを話し合った。2月に次の部会長会を開いて編さんスケジュールを練り、結果を3月の編さん委員会に諮りたいと考えている。
- 委員 専門嘱託員を置くことに賛成する。郷土博物館にはいろいろな資料がかなりあるが、例えば古い地図など、資料価値について判断ができる人がいないと眠っている資料はなかなか整理できない。こういう点でも専門嘱託員の活用を期待する。
- 委員 協力員について、活用のしかたを早く考えておいたほうがよい。市報新年号で市史編さんが特集記事にとりあげられ、市報を見て協力を申し出てくださっている市民が現にいらっしゃる。
- 事務局 考古部会などで、作業的な部分で人手が必要なことが発生すれば募集をかけたいと考えていた。また、高齢者に昔の話をきくときには、市内のことをよく知る市民の手を借りたい。いつの時点で、どのように、といった具体的なプランは未定だが、協力を申し出てくださった方に登録していただき、必要が生じたときお願いするのがよいかと考えている。
- 委員 市報で募集してもよいと考える。自薦、他薦可。最初のとりまとめは事務局でやるのがよいと考える。
- 委員長 協力員に、どのような協力をお願いできるものか、ご意見ください。
- 委員 各学校に、ちびっこ協力員を置いてはどうか。高齢者の話をきいたり、それをたとえば市制施行50周年の記念行事で皆で聞いて共有するなどすれば、市全体が盛り上がるのではないか。世代をつなぐ効果も期待できる。
- 委員長 次の世代をとりこむのはよい案。事務局で教育委員会との橋渡しや調整をお願いしたい。
- 委員 現在の「わたしたちの清瀬」という学校教材は、小学校3・4年生向けで少々物足りない感があるので、中高生も読めるものをつくったらよいと思う。現在の教材を編集した教員もとりこんではどうか。
- 委員 専門部会は時間軸で分かれている。自然領域には、これは適用できない。たとえば八王子市は自然編を独立させ、生物リストなどがある。清瀬では植物についてはまとめたが、他の生物は手つかずで、それをやるには協力員の力が必須だが、果たして集まるかどうか心配である。自然編については、内容をどうするか検討し、内容に合わせた体制が必要である。
- 委員 事象別の部会も設けたほうがよい。
- 委員 近代、現代についてより知りたいと思う。関東大震災から昭和半ばの大変革の

時代の村人がどういう生活をしていたのかをぜひ市史に残したい。民衆の生活を基本に市史をつくったらよい。農家の古老からのききとりが有効だが、高齢者が相手であり、急がなくてはならない。

委員 現代史は重要だが、戦後のききとりも、学童疎開のことはきけるが、戦時に成人していた人の話をきくのは難しくなりつつあるので、市民の協力を得てやらねばと思っている。また、明治や江戸のくずし字の文書は大切にしまわれているが、昭和 20 年代の回覧文書などは価値を認められないまま捨てられていることが多い。それらを集めるにも市民の協力が必要である。

委員 近現代史が、行政史から住民史へ、流れが変わっている。日記や手紙から地域の歴史を編もうというとらえ方である。資料提供を呼びかけたとき、日記や手紙は歴史的資料にはならないと考えられがちだが、ぜひ協力を求めたい。プライベートの中から地域の様子がわかってくることがある。

委員 写真からもいろいろなことがわかる。古い家が壊される今の時代、古い写真も役に立つ歴史資料なのだとわかってもらう取り組みが必要である。

委員 学校の沿革史も、校長室の金庫のなかにあるはずだが、プライバシーを理由になかなか見せてもらえない。元校長などの協力がほしい。

2-4 市史編さんの期間・刊行計画について

委員長 次に、市史編さんの期間、刊行計画について検討します。事務局より案を説明ねがいます。

事務局 当初、平成 32 年度まで、としていた編さん期間について、部会長の先生方から期間が短く厳しいとのご指摘を受けて再検討し、平成 32 年の市制施行 50 周年をはさんで平成 36 年度までを目途に実施する、と修正提案します。

委員長 資料集発行のタイミングなど、部会で調整することについて、あわせて了解ねがいます。期間の変更についてよろしいでしょうか。

各委員 了承。

2-5 その他

委員長 その他、ご意見ありますか。

委員 刊行物の編集は事務局で行うのか。

事務局 執筆は先生方にお願ひし、編集は事務局で行うと考えている。

委員 専門嘱託員に編集の専門家を入れられないか。

事務局 必要に応じて配置を考える予定であり、編集担当の専門嘱託員もその中で考えたい。

委員 付帯事業について、編さん期間の中間で若者向けのものを出したい。そのなかで方言についてぜひ入れてほしい。

委員 民俗は博物館の双書をあてるということになっており、方言についても発行予定の双書で扱うことになっているので、双書でカバーされるものとする。

- 委員 清瀬の方言とひとくちに言っても、清戸と下宿では方言も違う。昔は住宅が今のようにつながっていたわけではなく離れていたし、水田があったり、なかったりといった地形的な違いも反映している。今に伝えられていないこともいろいろある。農地改革のころのこともそうだし、病院街に療養患者が多くいたころのことも。
- 委員 農協の移り変わりや作物の移り変わりも入れたい。農業は清瀬にとって重要な項目である。
- 委員 川や、橋、道、名木など、年代をこえて続いているものを知ってもらい取り組みを考えたい。
- 委員 次の市史に含まれる内容の範囲、地理的な範囲をはっきりさせた方が、市民側にも寄与のしかたがわかりやすいのではないか。たとえば、昭和 48 年版のことを今回は扱う、扱わないとか、地理的には隣接地まで踏み込むかどうかなど。
- 委員 明治、大正、昭和のきよせの「人」に焦点を当てて検証することが大事だと考える。
- 委員 自治体史でもそういう動きがある。以前は人には焦点を当てなかったが、近現代では大きく取り上げる傾向にあるので、ここでもそうできると思う。
- 委員 せっかくの市史が本棚の飾りになってしまっは意味がない。辞書を引かなければわからないような難しいものでなく、読みやすく、わかりやすいものにした
- 委員 今後については、今日の話をもとに考えたい。

3. その他

- 委員長 次回の編さん委員会について、事務局からお話ねがいます。
- 事務局 当初、第 3 回委員会は 2 月 6 日を予定していましたが、この日ではなく、2 月に専門部会で刊行スケジュールなどを検討したうえ、3 月中旬ごろ第 3 回編さん委員会を開いて諮りたいと考えます。3 月 13 日を予定したいと思います。

4. 閉会

- 委員長 今日は活発な意見交換ができました。
それでは、これで第 2 回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。

平成 27 年 1 月 19 日

【資料 1】

清瀬市史編さんに係る基本方針（案）

1. 市史編さんの目的

この清瀬市史編さん事業は、平成 32 年の市制施行 50 周年に向け取り組むものであり、昭和 48 年に刊行された『清瀬市史』の内容的な見直し及び刊行以降の本市の歴史を明らかにしていくことを通して、市民の皆さんが、地域に対する理解、愛着を深め、地域への誇りをより一層育んでいけるよう目指すものである。

2. 編さん基本方針

- (1) 既刊『清瀬市史』は、昭和 48 年に刊行されて以来、40 年もの年月が経過していることから、その内容的見直しを行うとともに、最新の学問的成果を盛り込むものとする。また、執筆にあたっては、歴史学研究の専門家を中心に行うこととする。
- (2) 既刊『清瀬市史』は、資史料も織り交ぜた通史編 1 冊で構成されていることから、これを改め、通史編と資料編を分離し、より解りやすい構成とする。
- (3) 既刊『清瀬市史』編さんの過程で活用した資史料、その後の経過の中で収集された資史料や調査研究の成果等を有効に活用するとともに、潜在的な資史料の掘り起こしを積極的に行う。
- (4) 『清瀬市史』への関心を高め、市史編さん事業への取り組みを PR する目的で、資料編・通史編の発刊に先立って、概要版（図説）を刊行する。
- (5) 市史編さんの過程における市民参画を促す観点から、多くの市民の皆さんからの資史料提供を求め、活用を図るとともに、市民活動団体等が保有する資史料についても有効に活用を図る。
- (6) 収集した資史料等については、散逸の防止に向け、適正な整理・保存の方法を検討するとともに、広く市民に公開し、まちづくり、生涯学習や学校教育等での活用に努める。
- (7) 写真や図等を多く取り入れるとともに、平易な文章で記載するなど、広く市民に親しまれる内容にする。

3. 市史の構成

- (1) 清瀬市史（本編） 1冊
- (2) 清瀬市史（資料編） 5冊
 - ✚ 考古、古代・中世、近世、近代、現代
- (3) 普及啓発版 1冊
- (4) 市史研究（仮称） 6冊
 - ✚ 平成27年度から平成32年度 各年1冊

4. 市史編さん体制

(1) 市史編さん委員会

市史編さんにあたっての基本方針、必要事項の決定及び市史編さん事業の進捗管理等を行うため、市史編さん委員会を設置する。委員会は、学識経験者・市内文化的団体代表等・公募市民・市理事者及び市職員の15名以内で構成する。

(2) 専門部会

市史編さん委員会のもとに、時代別（考古、古代・中世、近世、近代、現代）にそれぞれ専門部会を設け、市史（通史編・資料編）に関する資（史）料収集・調査及び執筆等を行う。

(3) 市史編さん市民協力員（仮称）等

資史料の収集および整理等の市史編さん作業にあたっては、可能な限り市民への協力を募り、市史編さん市民協力員（仮称）等として登録する。

5. 市史編さん事務局

清瀬市史の編さん事業の事務局は、企画部市史編さん室にて行う。

6. 市史編さんの期間・刊行計画

(1) 市史編さんの期間

市史編さんは、清瀬市制50周年を迎える平成32年度までとする。

(2) 刊行計画

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
市史編さん委員会	←						→
考古部会、古代・中世				→	資料編刊行		
近世部会				→	資料編刊行		
近代部会					→	資料編刊行	
現代部会					→	資料編刊行	
概要版編集・執筆			→	概要版刊行			
通史編 編集・執筆						→	通史編刊行
市史研究		○	○	○	○	○	○

7. 附帯事業

- (1) 市史編さん事業の普及を図り、市民の市史への関心を高めるため、普及啓発版『(仮称) 清瀬の歴史』を刊行する。
- (2) 地域の歴史・文化の学びを通じて、清瀬への誇りと愛着を育む観点から、市史に関連した講演会・講座等を実施する。
- (3) 市史編さん室専用ブログ『市史で候』や市 Facebook を有効に活用し、地域に伝わる祭りや、結核にまつわる尊い歴史を積極的に紹介するなど、地域の歴史への認識を深めていくような取り組みの継続的展開を図る。

平成 27 年 1 月 19 日

【資料 2】

清瀬市史編さんに係る基本方針（案） 検討のポイント

1. 市史編さんの目的

【案】

「平成 32 年の市制施行 50 周年に向け」

【修正案】

「平成 32 年の市制施行 50 周年を視野に入れ」

2. 編さん基本方針

(4) 『清瀬市史』への関心を高め、市史編さん事業への取り組みをPRする目的で、資料編・通史編の発刊に先立って、概要版（図説）を刊行する。

3. 市史の構成

・新たな市史の名称について・・・資料3参照

【名称（参考）】

「新〇〇市史」・・・新八王子市史、新狛江市史、新青森市史 等

「新修〇〇市史」・・・新修小松市史、新修福岡市史、新修北区史 等

「新編〇〇市史」・・・新編八戸市史、新編大村市史 等

「続〇〇市史」等・・・続大宮市史、魚津市史続巻、秩父市誌続編 等

・普及啓発版の名称及び内容について・・・資料3参照

【内容】

市史編さん事業への取り組みのPRを図るとともに、市民の関心を高める目的で刊行する。

【名称（参考）】

稲城市・・・稲城のあゆみ（市史の普及版）

大田区・・・太田の史話（区史の普及版）

調布市・・・調布の歴史（市史の図説）

朝霞市・・・あさかの歴史（市史の普及版）

所沢市・・・ところざわ歴史物語（市史のダイジェスト版） 等

・市史研究（仮称）の内容等について・・・資料４・５参照

【内容】

新たな市史編さん事業のPRを兼ね、研究報告・論文・資料紹介・市民の声などを織り交ぜて編集する。

4. 市史編さん体制

・編さん体制のイメージ・・・資料６参照

5. 市史編さんの期間・刊行計画

(1) 市史編さん期間

【案】

市史編さんは、清瀬市制50周年を迎える平成32年度までとする。

【修正案】

市史編さん事業は、平成32年度の清瀬市制施行50周年にあわせ、事業の普及啓発版を刊行することとし、最終的に通史編を平成36年度に刊行することを目途とする。

(2) 刊行計画

【案】

	H26	H27	H28	H29	H30	H31
市史編さん委員会	←					→
考古部会、古代・中世				→	資料編刊行	
近世部会				→	資料編刊行	
近代部会					→	資料編刊行
現代部会					→	資料編刊行
概要版編集・執筆			→	概要版刊行		
通史編 編集・執筆						→
市史研究		○	○	○	○	○

	H32	H33	H34	H35	H36
市史編さん委員会					
考古部会、古代・中世					
近世部会					
近代部会					
現代部会					
概要版編集・執筆					
通史編 編集・執筆	通史編刊行				
市史研究	○				

平成 27 年 1 月 19 日

【資料 3】

自治体史の名称

自治体刊行の通史を扱った書籍の名称

自治体	書名	名称の特徴
東京都国分寺市	ふるさと国分寺のあゆみ	あゆみ
東京都稲城市	稲城のあゆみ（市史の普及版）	あゆみ
埼玉県さいたま市	図説浦和のあゆみ	あゆみ
東京都文京区	文京のあゆみ その歴史と文化	あゆみ
東京都江東区	江東区のあゆみ	あゆみ
埼玉県熊谷市	江南町の歩み（町史普及版）	あゆみ(歩み)
埼玉県戸田市	戸田市いまむかし	いまむかし
東京都練馬区	練馬60（60年間に限定）	期間限定
埼玉県志木市	志木市郷土誌	郷土誌
東京都八丈町	八丈島誌	誌
東京都八丈町	新編八丈島誌	誌
東京都品川区	品川区史 歴史と未来をつなぐまち しながわ	市史+α
東京都大田区	太田の史話（区史の普及版）	史話
東京都武蔵野市	武蔵野百年史	年史
埼玉県白岡市	ふるさと白岡（市史普及版）	ふるさと
埼玉県さいたま市	大宮のむかしといま（市史の縮刷版）	むかしといま
東京都あきる野市	秋川の昔の話	昔の話
東京都あきる野市	秋川昔物語ー秋川市とところどころー	昔物語
東京都あきる野市	五日市物語 ふるさとのあれこれ	物語
東京都府中市	武蔵国府のまち 府中市の歴史	歴史
東京都国立市	くにたちの歴史（市史の縮刷版）	歴史
東京都調布市	調布の歴史（市史の図説）	歴史
東京都羽村市	はむらの歴史	歴史
埼玉県さいたま市	与野の歴史（市史ダイジェスト版）	歴史
埼玉県熊谷市	図説 大里村の歴史	歴史
埼玉県飯能市	名栗の歴史	歴史
埼玉県東松山市	東松山市の歴史	歴史
埼玉県朝霞市	あさかの歴史（市史普及版）	歴史
埼玉県和光市	和光の歴史（市史図説）	歴史
東京都台東区	台東区歴史・文化テキスト	歴史・文化テキスト
埼玉県所沢市	ところざわ歴史物語（市史ダイジェスト版）	歴史物語
東京都町田市	町田の歴史をたどる	歴史をたどる

調査対象：東京都・埼玉県全市町村の現在販売されている書籍 市史・市誌は除外

新旧自治体史の名称

自治体	旧名称	新名称	名称の特徴
東京都武蔵野市	武蔵野市史	武蔵野百年史	期間の限定
東京都練馬区	練馬区史	ねりま 60	期間の限定
東京都八王子市	八王子市史	新八王子市史	新
東京都狛江市	狛江市史	新狛江市史	新
石川県羽咋市	羽咋市史	新羽咋市史	新
青森県青森市	青森市史	新青森市史	新
北海道旭川市	旭川市史	新旭川市史	新
北海道初山別村	初山別村史	新初山別村史	新
熊本県宇土市	宇土市史	新宇土市史	新
石川県小松市	小松市史	新修小松市史	新修
福岡県福岡市	福岡市史	新修福岡市史	新修
石川県七尾市	七尾市史	新修七尾市史	新修
大阪府池田市	池田市史	新修池田市史	新修
愛知県豊田市	豊田市史	新修豊田市史	新修
鳥取県米子市	米子市史	新修米子市史	新修
岡山県倉敷市	倉敷市史	新修倉敷市史	新修
北海道釧路市	釧路市史・新釧路市史	新修釧路市史	新修
滋賀県大津市	大津市史	新修大津市史	新修
滋賀県彦根市	彦根市史	新修彦根市史	新修
大阪府泉佐野市	泉佐野市史	新修泉佐野市史	新修
東京都北区	北区史	新修北区史	新修
青森県八戸市	八戸市史	新編八戸市史	新編
長崎県大村市	大村市史	新編大村市史	新編
東京都八丈町	八丈島誌	新編八丈島誌	新編
埼玉県日高村	日高村史	日高村史 続	続
埼玉県さいたま市	大宮市史	続大宮市史	続
富山県魚津市	魚津市史	魚津市史 続巻	続巻
埼玉県秩父市	秩父市誌	秩父市誌続編	続編
東京都板橋区	板橋区史	板橋区史	同名
埼玉県飯能市	名栗村史	名栗の歴史	名称変更

※2012年以降自治体史を刊行している自治体を中心に調査

自治体史付随刊行物の名称

自治体	種別	書籍名
読谷村	広報	『官報にみる読谷村』
石垣市	写真集	『八重島写真帖』
茅ヶ崎市	写真集	『茅ヶ崎きのうきょう』
横浜市	写真集	『昭和の横浜』(開港 150 周年記念出版)
市川市	写真集	『この街に生きる、暮らす』
印西市	写真集	『ふるさと歴史アルバム いんざい』
南陽市	写真集・年表	『年表・写真でみる南陽市』
読谷村	人物	『読谷の先人たち』
荒尾市	人物	『余田末人 回顧録』
読谷村	戦争	『三人の元日本兵と沖縄』
読谷村	戦争	『読谷村の戦跡めぐり』
横須賀市	戦争	『占領下の横須賀 連合軍の上陸とその時代』
近江八幡市	その他	『近江八幡の部落史』
近江八幡市	その他	『近江八幡の部落史くらしとしごと』
印西市	その他	『印西名所図会』
名張市	その他	『おきつもの名張 今と昔』
読谷村	その他	『読谷村の由来記』
交野市	復刻編	
藤沢市	報道	『市民が語る 60 年』
藤沢市	報道	『ニュースは語る二〇世紀の藤沢 1901~1955』
藤沢市	報道	『ニュースは語る二〇世紀の藤沢 1956~2000』
大阪市	まんが版	『大阪市の歴史』
近江八幡市	民俗	『水辺の記憶』近江八幡市島学区の民俗誌
印西市	民話集	『光堂の竜』
糸満市	昔話	『沖縄・糸満市の昔話』

※2012 年以降自治体史を刊行している自治体を中心に調査

※普及版・概要版・ダイジェスト版・総集編は除外

平成 27 年 1 月 19 日

【資料 5】

自治体史編さんに伴う継続的刊行物

自治体史編さんにともなう継続的刊行物

自治体	書籍名	刊行時期	価格
愛知県岡崎市	岡崎市史研究	毎年3月	不定(1000円以下)
愛知県尾張旭市	市誌だより	-	-
愛知県名古屋市	新修名古屋市史だより	-	無償
青森県八戸市史	はちのへ市史研究	年1回	不定(2000円弱)
青森県八戸市史	八戸市史だより	年1回	無償
石川県小松市	へんさんだより「市史へんさん」	毎月	無償
大阪府茨木市	年報	年1回	-
大阪府岸和田	岸和田市史紀要	-	-
大阪府大阪市	編纂室だより	毎年3月9日	無償
岡山県津山市	津山市史だより	-	無償
沖縄県石垣市	石垣市史研究	-	-
香川県坂出市	坂出市史研究	-	-
神奈川県海老名市	えびなの歴史 海老名市史研究	-	1000円
神奈川県相模原市	市史編さん便り	2か月に1回	無償
神奈川県茅ヶ崎市	茅ヶ崎市史研究 ヒストリアちがさき	年1回	200円
神奈川県横須賀市	市史研究横須賀	年1回	-
神奈川県横浜市	市史通信	-	無償
群馬県館林市	館林市研究おはらき	2・3年に1回	500円
埼玉県熊谷市	熊谷市史研究	年1回	700円
静岡県沼津市	沼津市史研究	-	800円・1000円
静岡県沼津市	市史だより	-	無償
静岡県藤枝市	市史だより	-	無償
島根県松江市	松江市史通信	毎年3月	無償
千葉県市川市	市川市史研究いちかわ	年1回	700円
千葉県市川市	いちかわ市史編さんだより	不定期	無償
千葉県柏市	かしわの歴史 柏市史研究	-	-
千葉県四街道市	市史研究誌 四街道の歴史	3月	500円
東京都狛江市	市史研究 こまえ	-	370円
長崎県長崎市	市史だより	不定期	無償
兵庫県三田市	市史研究さんだ	-	不定(1000円前)

			後)
福岡県福岡市	市史だよりFukuoka	年 2 回	無償
福岡県福岡市	市史研究ふくおか	年 1 回	-
北海道旭川市	旭川研究<いまむかし>	-	-

※2012 年以降自治体史を刊行している自治体を中心に調査

清瀬市史編さん体制イメージ（案）

